

ちょっといい話

『父からの教え』



櫻庭 由美

ジャンパーに野球帽、雪が解けると颯爽と自転車に乗って毎日庭の手入れに出かけます。年のわりには父はまだ若い。母が思うように歩けなくなってからは、たとえ一つの饅頭でも二人で分け、母の車椅子を押し二人寄り添うように毎日を過ごしていました。いつも一緒に二人はディーサービスでも「ラブラブだねえ」と評判でした。

この頃の私は母の介護、耳の遠い父、仕事にも少々疲れ、ディーサービスに出かける二人を見送る時間だけが幸せでした。

いつもの様にディーサービスから帰ってきた父を見て“妙に顔色が悪い、日焼けでもしたの…”とも思いましたが「何か変だな～体がおかしい。寒い…」と言っていた父に「大丈夫、寝てれば治る。横になって休めば治る。」と、いとも簡単に返答したのです。もう一度父をみるとガタガタと震えていました。その様子に“これはもしかして大変？”と感じながらも“いやいやそんなはずはない。昨日あんなに楽しそうに母の車椅子を押し、一昨日だって自転車に乗っていたし、食事だって以前に比べるとしっかり食べている。まさかはない！”と父の異変を受け入れられ

ない私は、後ろ髪を引かれる思いで仕事に出掛けました。

2時間後、父は病院へ救急搬送。40度以上の高熱でした。父の異変を察しながらも仕事に出かけた私は“なんてひどい娘！”と後悔しながら救急車の中で「ごめんなさい、ごめんなさい。苦しかったね、不安だったね。」と父の手を握りながら何度も繰り返しました。そして3か月後、父は肺炎で他界しました。

さて24年前のことになりますが、A君がお母さんに連れられて音楽教室に通って来るようになり4か月が過ぎた頃、私はA君にどう関わっていけば良いのかわからなくなり行き詰まっていた。A君は広汎性発達障害(自閉症スペクトラム)でした。当時は自閉症という言葉はあったものの、まだその障害について良く理解されていませんでした。私が初めて出会った自閉症のA君。私は毎日がA君のことでいっぱいでした。

そんな私を心配した母と姉は「もういいんじゃない…」と言うと父が「せば～どうすべ？この子はどこさ行って音楽するのよ？ここ見つけで来たんだね～もう少しやってみなが～…」と。この一言が私を後押しし、何事も諦めない大切さを教えてくれました。そして、私に音楽療法を学ぶきっかけをつくってくれたのでした。

父の姿、形は見えないけれど生前では気づかなかったことを今なお教えてくれ、家族を支えてくれる父に感謝しています。

入会のご案内

NPO 法人青森音楽療法研究会では、皆様の“こころ”と“からだ”が音楽を通してより健やかになるよう実践・研究しています。

私たちの活動に賛同し、共に活動できる方

あるいは活動を支援して下さる方であれば、どなたでも入会できます。

皆さまのご参加をお待ちしています。

どなたでも
参加できます

♪ 正会員 (個人・団体)

＝活動に直接関わりたい方あるいは団体

♪ 学生会員 (個人)

＝活動に関わりたい学生の方

♪ 賛助会員 (個人・団体)

＝活動には直接関わらず、会を支援してくれる方あるいは団体

会費

会員区分	入会金 (円)	年会費 (円)
正会員 (個人)	5,000	5,000
” (団体)	5,000	1□5,000円で 2□以上
学生会員	2,500	2,500
賛助会員 (個人)	1,000	3,000
” (団体)		1□3,000円で 3□以上

特定非営利活動法人 青森音楽療法研究会

〒030-0943 青森市幸畑 1 丁目 9 番 5 号
Tel:090-6258-7881 FAX:017-738-2639
メール mt_aomori@yahoo.co.jp
ホームページ https://aomori-mta.org



NPO 法人
青森音楽療法研究会

会報

第 35 号
2018 年 4 月

音楽療法セミナー'17



ごあいさつ

昨年度もたくさんの皆様にご協力いただき活動することができました。本当にありがとうございます。2017年度の活動報告を広報誌としてまとめましたのでどうぞご覧ください。

今年2月に音楽療法セミナーをアピオあおもりで主催いたしました。(上記写真参照)『子どもの笑顔を引き出すコミュニケーション』～発達と感性～と題したこのセミナーは、青森市市民活動活性化事業として採択され、県言語聴覚士会との共催で行われました。子どもの「発達」には他者との関わり(コミュニケーション)が不可欠です。特にハンディを持つ子どもたちの場合には、独自の「感性」を持っていることが多いため、それぞれの特性を良く理解した上で関わりを持つことが重要になります。ですが、残念ながらその理解は深まっているとは言い難いのが現状でしょう。

セミナーでは、趣旨に賛同いただいた網塚貴介先生(県立中央病院総合周産期母子医療センター成育科部長)、澁屋康則先生(元国立障害者リハビリテーションセンター言語聴覚療法士長)、生野里花先生(東海大学非常勤講師:音楽療法)に現場の様子を交えながらご講演いただきました。専門職を対象としたシンポジウムでは町田徳子先生(青森県発達障

NPO 法人青森音楽療法研究会理事長 佐々木 純子

害者支援センター「ステップ」センター長)の司会で、良好なコミュニケーションを築くための方法や家族への支援について意見交換しました。熱気に包まれた会場では様々な立場の方々がそれぞれに学びを深めていただき、「音楽療法によるアプローチ、コミュニケーションによる信頼関係の構築が大切であることに気付かされた。」「どの先生のお話にも共通するのは親も子も笑顔が大切だということ。」「支援を見直す良い機会になった。」「療育や支援体制について多面から総合的にフォローしていくことの大切さを学んだ。」などの感想が寄せられています。

また、休憩時間には障がい者施設のご協力によりパンや飲み物を販売いただき、長丁場のセミナーにホッと一息つく時間を設けることができました。

私たち NPO法人青森音楽療法研究会はこのようなセミナーを通し音や音楽が心身の健康にどう関わっているのか理解が深まるよう、更にはハンディの有無にとらわれない社会を目指して真摯に活動に取り組んで参りたいと思っています。どうぞ、今後も変わらぬご指導とご協力をお願いいたします。